まごころだより

２０２０年　６月号

この度のコロナウイルス感染症に私たちは何を学んだのでしょう。2月の初めには、まさかこんなにも多くの人達に悪影響を及ぼすとは政府も多くの国民も想像していたでしょうか。迫りくる脅威に次々と問題を課されて、まるでウイルスが人間を試しているのではないかとさえ感じました。人類は過去に幾つもの感染症に脅かされ、多くの犠牲者を出してきましたが、その度に感染症を抑える薬を開発してきました。しかしながら現時点で撲滅できたのは天然痘のみです。今、なりを潜めている多くのウイルスは、開発されたワクチンで辛うじて抑制されているものの安心はできないのです。ワクチンの開発には長い時間がかかります。開発を待っている間にも感染者が増え続け社会を脅かすでしょう。

大きな被害を被った人、家族、会社、地域、そして経済。こんな時こそ国民を護るべきなのが国です。災害が起きた時の対策は、起きてからでは遅すぎると歴史で学んできたはずですが、想定を超える速さで襲ってきたウイルスには太刀打ちできなかったのはどの国も同じだと思いました。
特に医療機関においては、治療薬も無く防護する装備も不足する状況で、自ら感染の危険性にさらされながらの治療・看護を長きに渡り、本当によくやって下さっていると思います。

介護施設では完全な防御が徹底できずに施設内にまん延する結果になりました。寝たきりの方や認知症の方を介助・移動・誘導する難しさを突き付けられました。そこを起点に施設外に拡大させる危険が伴い、利用者の家族や知人、他の施設へ拡散させないために関わった人の足跡を辿る作業に多くの時間をついやされたということです。感染の疑いが発生すると、その結果が判明するまでに準備しておく事はとても沢山有ります。今までインフルエンザの流行にはある程度の対策を講じてありましたが、それとは違う意識で防御する準備や方法を考えておかなければなりません。

想像を絶するこの度のコロナウイルス感染症に教えられたことは、いままで大丈夫だったからといって、自分本位の行動はとってはいけない。自分に限って病気にかからない。病気にかからないようにするにはどうするべきか。もし病気にかかったと疑われたらどうしたら良いか。人にうつさないようにはどうするべきか。治ったからといって安心してはならない。それを怠ると生活に大きく影響すると承知しておくべきだと思います。

私どもの施設では、三密を避けるため人との距離を空けて、接触を極力控え、そして換気を絶えず行ってきました。施設としてコミュニケーションを重視してきた点、三密は避けられない場所でもあります。しかし感染を未然に防ぐためには策を講じなくてはならず、利用者や利用者家族の方に利用を控えていただくお願いをせざるをえませんでした。利用

者の方には利用を控える理由が理解できない方もおられましたが、ご家族にはその趣旨の理解をいただき密集しない状況にできました。私どもはとても心苦しく、申し訳なく辛く思っております。ここで改めて、ご協力に感謝申し上げます。

今のところ感染はありませんが、いつコロナがやって来るか分かりません。ここで気を緩めるわけにはいきません。引き続き警戒心をもって取り組んでまいりますので、今後もご協力をお願い申し上げます。一日でも早くのびのびと楽しんでもらえる日が戻ってくることを心から願っています。